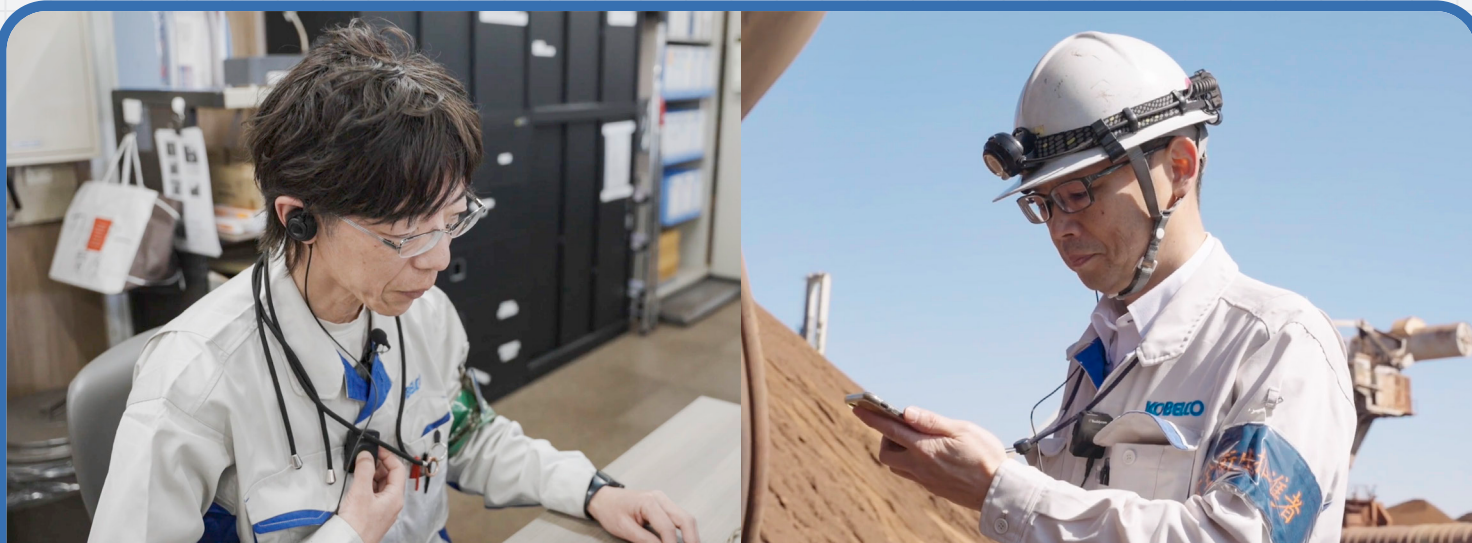




広大な構内での単独作業も安心 コミュニケーションと安全管理を強化

株式会社神戸製鋼所では、**広大な工場構内でのスムーズな情報共有・位置把握・安全管理のため、Buddycomを活用**しています。神戸製鋼グループは産業機械・建設機械・プラントエンジニアリング・新エネルギーなど多角的な事業を展開しており、事業領域が広く部門ごとに現場環境や業務プロセスが異なることから、**各現場の特性に合わせて柔軟に運用できる点**を評価し導入しました。

原料を受け入れる岸壁から広大なヤード、搬送設備までを担う製鉄部では、職員の行動範囲が広く単独行動が多いなか、連絡手段は電話やメールが中心でした。報告のタイムラグや連絡への心理的ハードルがあり細やかな連携が難しく、屋外の一部エリアでは所内の一斉放送による気象情報や注意喚起が聞き取りにくいという課題もありました。

一方、設備部が管轄する構内は570万平方メートルと広大で、職員が車・自転車・徒歩と多様な手段で移動するため、「誰がどこにいるか」を正確に把握することが難しく、安全管理面での対策が急務でした。

こうした部門ごとに異なる課題に対し、**Buddycomの多機能さと柔軟性**によって、それぞれの現場に最適化した活用を実現しています。



現場への最適化が グループ全体の業務効率と安全性を底上げ

主な使用機能



コミュニケーションが活性化し、 確実に情報が届く

製鉄部では、作業完了報告や些細な情報共有が気軽に行えるようになり、現場のコミュニケーションが活性化しました。会議中で電話に出られなくても、チャット画面のテキスト化された内容で状況を把握できます。ライブキャストで事務所にいながら現場を確認でき、強制起動機能により放送が聞こえにくい屋外でも確実に情報を届けられます。

位置情報のリアルタイム共有で 安全管理を強化

設備部では、位置情報のリアルタイム共有により、管理者が現場の状況を即座に把握できるようになりました。広大な構内で誰がどこにいるかがわかるため、単独作業が多い環境でも現場職員の安心感が向上し、より安全に業務を遂行できる環境が整っています。部門ごとに異なる課題を、柔軟な運用で解決しています。



導入前の課題

- 部門ごとに現場環境や業務プロセスが異なり、抱える課題が多岐にわたっていた
- 行動範囲が広く単独行動が多いため、電話やメールではタイムラグや連絡への遠慮が生じていた
- 広大な構内での職員の位置把握や、屋外での一斉放送の聞き取りに課題があった

ご担当者からのメッセージ



広大な構内での単独作業が多い環境ですが、Buddycomは部門ごとの課題に柔軟に対応でき、今やなくてはならない存在になりました。メールや電話と異なり、タイムラグのない連携や位置情報の把握ができるため、現場の安心感向上に繋がりが助かっています。今後も他部門への導入を積極的に進めていきたいと考えています。